

# コスタリカへの医療ツーリズムとその背景

丸岡 泰

近年、コスタリカの経済成長に貢献してきた観光産業のなかで、医療ツーリズムの成長が著しい。本稿は、同国への医療ツーリズムとその背景について、近況をご報告する。

## ●政府の積極姿勢

コスタリカ政府の医療ツーリズムへの積極姿勢は、同国の在カナダ・在米大使館のウェブサイトからうかがわれる。

在カナダ大使館サイトの「観光」タブを開くと、そこには「医療ツーリズム」の動画がある（全八分三〇秒）。ラウラ・チンチージャ現大統領とオスカル・アリアス前大統領が出演し、コスタリカの医療技術の高さを強調する。医療機関の国際認証取得の実績と、価格の安さが説明される。ラストで、美容外科手術後のサングラス

男性が、「一〇歳から一五歳位若返ったよ」「プーラ・ビータ・コスタリカ」と言い放ち、立ち去る（<http://www.costaricaembassy.com/tourism.php>）。

在米大使館サイトにも類似の内容の別の動画が掲載されており、こちらには競争力大臣が登場する（全九分二一秒）。これらの動画は北米二国市場限定のPRである。

医療ツーリズムの振興組織としては、医師・病院・政府機関の公民連携のため、二〇〇七年にコスタリカ国際医療推進協会（Consejo para la Promoción Internacional de la Medicina de Costa Rica: PROMED）が結成された。医療機関やファシリテーターへの認証付与、人材育成、広報などを行う業界団体である。

PROMEDは医療ツーリズムを、「出発国よりも安いコストで

職業的な医療手当を受けるために他の国に旅行する行為」と定義している。この定義に異議はありうるが、旅行の主要目的に医療が含まれれば、医療ツーリズムと考えられて良であろう。通常、在留外国人の医療受診や別の目的をもつ旅行者の偶発的医療受診は、これに含まれない。政府は温泉や代替医療など医療外の活動を含む、ヘルスツーリズムを振興している。

産業育成の画期は、二〇〇九年二月、アリアス政権がヘルスツーリズムを国民的利益とする政令を公布したことである。この政令は先進国の医療事情を述べ、コスタリカが地理的立地、気候、政治経済の安定、ヘルスシステムへの世界的な評価等の点で競争優位を持つとする（参考文献③）。

これを受けてコスタリカではさまざまな育成策が採られてきた。

貿易振興機関PROCOMERは米国への医療ツーリズム振興使節団の派遣、米・カナダ市場の調査とPRを進めてきた。

さらに、二〇一〇年以降毎年、PROMEDとコスタリカ観光庁（ICT）が運営するラテンアメリカ医療ツーリズム会議（Congreso Latinoamericano de Turismo Médico）がコスタリカで開催されている。第一回の参加者は四〇〇名を超えた。

## ●医療ツーリズム市場

世界の医療ツーリズム市場は二〇〇六年の約六〇〇億ドルから成長を続けたとみられる。

利用者側の背景としてまず重要なのは、米国の医療の高額化である。米国では、医療費支払いが個人破産の第一理由である（参考文献④）。医療費支払いのための保険加入は十分ではない。〇七年において米国の健康保険未加入者は四九〇〇万人、歯科保険の未加入者はさらに多い一億八〇〇万人だった。カナダでも歯科への支出は公的より民間が主となっているため、高額治療を要する患者は、外国へ行く可能性がある。

もうひとつの背景は、公的医療

制度での治療までの待機期間が長いことである。カナダは米国とは対照的に国民の普遍的医療アクセスに政府が責任を負うが、専門医の治療を受けるまでの待機期間の長さ故に、外国の医療を選択する患者もある。

外国の医療を選択する北米人の数の推計は、たとえば、米国人約五〇万人（二〇〇六年）、カナダ人約三〇万人とされる（参考文献⑥）。医療ツーリズムの目的地として世界的に著名な国は、インド、シンガポール、タイ、メキシコ、ブラジル、キューバなどである。このうち患者数最多のインドの成功は、政府の振興策により一〇年足らずで達成された。インターネットの発達が生市場の可能性を広げてきた。

コスタリカは米国人の医療ツーリズム目的地の上位五カ国に入る、とされる（参考文献②）。患者の内訳は米国人が八五%で、カナダ、ヨーロッパ、カリブ諸国がこれに続く。同国への通常の観光客に占める米国人比率三九%、カナダ人比率六%の合計四五%よりもずっと北米に集中している。

医療価格の差がこのツーリズムの推進力である。代理店の経験的

値に基づく価格比較では、高価な順に「米国価格」＜「コスタリカ価格」＜「米国外平均価格」となる（表）。つまり、コスタリカは格安国ではない。たとえば、ラテンアメリカ諸国の患者はキューバに集まるが、コスタリカには集まらない。

コスタリカへの医療ツーリスト数は正確には把握されていない。が、コスタリカ政府は病院の調査に基づく推計で、二〇〇〇年五〇〇〇人、〇八年には二万二千五百

表 医療平均コスト (ドル)

|      | 処置           | 米国           | コスタリカ     | 米国外平均     |
|------|--------------|--------------|-----------|-----------|
| 美容外科 | フェイス/ネックリフト  | 6,000-15,000 | 3,900     | 2,900     |
|      | 脂肪吸引(エリアあたり) | 2,000-10,000 | 1,300     | 1,000     |
|      | 豊胸           | 4,000-10,000 | 5,000     | 3,750     |
| 歯科   | クラウン         | 500-3,000    | 225-1,000 | 170-700   |
|      | インプラント       | 1,000-5,000  | 650-3,000 | 500-2,200 |
|      | 根管治療         | 350-860      | 165-250   | 125-190   |

(出所) 参考文献⑥ pp.19-23、pp.308-309 より抜粋。代理店の経験的値。

〇〇〇人としている。PROMEDの発表では、医療ツーリストは〇九年三万人、一〇年三万六〇〇〇人、一一年に四万人、一二年には四万八〇〇〇人と順調に増えてきた。全観光客到着数は〇九年に世界経済危機やインフルエンザの流行で対前年比減だったが、医療ツーリズムへの影響は確認されていない。

コスタリカへの近年の国際観光客は年間約二〇〇万人のため、医療ツーリスト数はその一・五〜二%前後である。ニッチにみえるが、医療ツーリストの支払金額は通常の観光客よりも多い。二〇一年のPROMEDERの発表によると、医療ツーリスト一人の滞在時支出は六五〇〜七〇〇ドルで、それは通常の観光客一人の支出一六〇ドルの四倍を超える。医療ツーリズムによる外貨獲得額は〇九年六〇〇万ドル、一一年一億ドル、一二年には三億三八〇〇万ドルと報道されている。一二年の数字は、コスタリカの全観光収入の約一五%、同年輸出総額の二・二%に相当する。また、ICTは、この分野の医療による雇用創出を二万人と推計している。

## ●美容外科と歯科による発展

コスタリカへの本格的医療ツーリズムは一九八〇年代、外国人の安価な美容外科の利用がはじまりとされる。その後、九〇年代、マイアミで訓練を受けた医師四人が米国から体系的に外国人を集め始め、患者は急増した。初期の医療ツーリズムとは、フェイスリフト、ボトックス処置、そして脂肪吸引のことだった（参考文献⑦）。時間の経過とともに美容外科の比率が下がり、歯科の比率が上がる傾向がみられた。歯科ではインプラントやホワイトニング、クラウンなど、保険適用外の審美的治療を含む様々の宣伝がネット上にあふれている。認証制度の他に、器具の素材がアメリカ食品医薬品局（FDA）承認であり、米国からの輸入品であることが、信用の材料となる。

ある案内書は、美容外科と歯科治療について、コスタリカを最人気五カ国のひとつとする。同書には、最高三の星の数で表した項目別評価があり、コスタリカの美容外科と歯科は、両方とも、「旅行時間」と「インフラ」が三ツ星である。また、「(お金の)節約」と「英語」において星二つである

(参考文献⑥)。

この二専門分野での同国の特徴をSWOT分析(強み・弱み・機会・脅威)の枠組みで整理してみると、まず、米国からの近さとインフラが同国の「強み」である。

そして、もうひとつの「強み」は、治療経験者の増加であろう。手術数は技術水準の反映であり、患者の経験談は次の患者に影響を与える。また、ネットを通じて、評判はすぐ広まる。

逆に相対的な「弱み」といえるのは、先述の格安ではない医療費と、英語である。英語については、他の案内書も「言葉の問題で計画が遅れてしまう可能性がある」とする(参考文献②)。

さらに、この市場でのコスタリカへの「機会」は、米国を上回るコスタリカの健康とその関連指標である。たとえば、今日の出生時平均余命(七九・四年)は米国を上回っている。また、二〇〇〇年に行われた世界保健機構(WHO)のヘルスシステムの序列で、同国は三六位と米国をひとつ上回った。このようなコスタリカの健康指標の成果や医療システムの評価は一般の国民向けの公的保健医療政策によるもので、外国人数

万人を受け入れる民間施設の成果と評価ではないが、それでも、これらの指標は適切な保健医療政策の成果であり、衛生水準と医療水準の高さを間接的に示している(参考文献①)。

さらに、電気・通信の高いインフラ普及度、主宗教がカトリックであり、民主主義、常備軍廃止、自然保護政策などの特徴により、欧米の患者の多くが訪問しやすいことも間接的な「機会」の要素といえる。

一方、「脅威」は、米国議会で二〇一四年までに医療保険への加入を義務付ける法案が通過したことであろう。もともと、保険対象外の治療は影響を受けない。

美容外科と歯科の成功を機に多様な医療の国際化が進められた。眼科手術、肥満治療手術、整形外科手術の発達が案内書で報告されている(参考文献②)。また二〇一三年のICTの発表ではサービスの最大の需要は歯科の四二%であり、これに続いて整形外科・婦人科二二%、予防医療一六%、美容外科一〇%である(La Nación, 17 de julio de 2013)。

## ●患者受け入れ

医療ツーリズムに関わる機関には、患者にとって窓口となるファシリテーター、治療を行う医療機関、宿泊・休息の場を提供するホテル、回復療養所などがある。

ファシリテーターはこの分野専門の代理店である。患者が直接医療機関と接触することも可能だが、治療の前後をより快適にしたい人はこれを利用できる。患者にとって医療機関の選択は大問題で判断が難しい。患者が判断できない場合には、医療機関を紹介するファシリテーターに決断を委ねることもできる。その他のサービスは、宿泊施設の紹介や診察用資料の郵送手配、送迎、レストラン・レンタカーの予約、携帯電話手配、通訳、手術後のカウンセリング、マッサージ、融資の案内、コンシェルジュなど、多様である。

次に、患者が自ら医療機関を選択する場合、参考となる認証が、米国医療施設認定合同委員会国際部(Joint Commission International: JCI)である。他にも制度はあるが、JCIが最も影響力がある。非営利団体JCIは一九九〇年代の後半にアジア、ヨーロッパ、中東、南米など、米

国外の病院を調査し、認証するために設立された。二〇一三年、世界のJCI認証取得病院は五七カ国三七五病院に及ぶ。コスタリカのJCI認証取得経験をもつ病院は三つあるが、うち一施設は取得後認証取り下げとなっている。現在JCI認証取得済みはクリニカ・ビブリカとCIIMA (Centro Internacional de Medicina)の二つである。両者ともサン・ホセ市とその近郊にある。

クリニカ・ビブリカは一九二〇年代、プロテスタント宣教師により設立された老舗医療機関だが、九〇年代に民間投資家に売却された。〇九年発行の案内書には、同病院の五〇〇〇万ドルのインフラと三五〇〇万ドルの新施設が米国の施設に比肩するとしてある。部屋数一二〇室、医師数は二〇〇名で、医師は欧米で訓練を受けたとされる(参考文献⑥)。翌一〇年発表の調査には、次の事実の紹介がある。同病院は米国ニューヨークのテュレーン大学との提携を有する。同病院は、美容整形や歯科医ケアを外部委託していたが、その内部化を進めようとしている。この病院は一フロア全てが医療ツーリズム部である。英語ス



タッフが配置されている。ここで月約四〇人、全患者の約二〇％を占める外国人患者に医療が提供される。患者の九五％は米国人で、主にフロリダ州、テキサス州、ニューヨーク州、コロラド州から来ている。患者がよく利用する処置は、美容外科、とりわけフェイスリフト、脂肪吸引、バスト形成、腹壁形成術、胃バイパス手術、整形外科手術である（参考文献⑦）。

次に、CIMAは二〇〇〇年設立と新しい。インターナショナル・ホスピタル・コーポレーションが経営する。ダラスのベイラー大学医療センター所屬であり、ラテンアメリカにある同様の八施設のひとつである。これは、国内でもっとも企業的な医療施設である。〇九年出版の案内書には、CIMAは専門分野五〇超、医師一六〇人、規模拡大中であり、患者の二五％超が外国人、等とある（参考文献⑥）。翌一〇年発表の調査では、以下のような紹介がなされている。医師は四〇〇人、外国人患者専用部署があり、ラテンアメリカで唯一、米国退役軍人省の認証を受け退役軍人に医療提供をしている。IMAXシアターとヘ

リパッドを備え、保険事務と問題解決専門の管理部を持つ。また、術後ケアの統合を進めている（参考文献⑦）。

回復療養所やホテルは外来のみの医療施設を利用する場合や、治療後休養したい場合に必要となる。回復療養所はコストリカ独自の領域とされる。売り物は看護師の常駐、空港・医療施設送迎、三食、お茶、歯科患者専用の柔らかい食事、インターネット、外国語対応職員、ロビー・プール、景色、近隣の買い物等である（参考文献②④）。

### ●新拠点の形成

コストリカの民間医療部門は今、設備や機材への投資が相次いでいる。その代表例が、二〇一〇年以降に実現された、コストリカ北西部グアナカステ県へのクリニカ・ビブリカとCIMAの進出である。前者の計画は総額四〇〇〇万ドル、後者は一億二五〇〇万ドルと発表されている（参考文献⑤）。

これらの新規投資によりこれまでサン・ホセとその近郊に集中していた民間医療施設が、新しい拠点を形成したといえる。グアナカ

ステ県は外国人・引退生活者の魅力的な住空間である。太平洋側のビーチの大規模観光開発とゴルフ場などリゾート開発が進んでおり、海外からの直接投資が活発である。また、人口となるリベリアの国際空港はサン・ホセの国際空港に次ぎ利用者数国内第二位である。両病院はともに空港とビーチからのアクセスが良い。

二病院の進出はグアナカステの優れた投資環境の反映である。この新拠点は今後さらに、外国人・引退生活者向けの医療と観光・レジャー関連の投資を呼ぶ可能性がある。

（まるおか やすし／石巻専修大学教授）

《参考文献》

《日本語》

①丸岡泰「二〇〇八」『コストリカの保健医療政策形成』専修大学出版局。

②ウッドマン、ジョセフ「二〇〇八」〔斉尾武郎監訳〕『メディカルツーリズム 国境を越える患者たち』医業経済社。

《外国語》

③「Declaratoria de Interés Pú-

blico Nacional las actividades e iniciativas relacionadas con el “Turismo de Salud” “DECRETO N.º 35054-S-COMEX-COM-TUR DEL 27/10/2008, *La Gaceta*, 34, Martes 18 de febrero de 2009.

④Gahlinger, Paul 2008. *The Medical Tourism Travel Guide* (Montana: Sunrise River Press).

⑤Levin, Matt 2011. “Is Guacaste medical Tourism’s next hot spot?,” *Tico Times*, May 06.

⑥Marsek, Patrick W. and Sharp, Frances 2009. *The Complete Idiot’s Guide to Medical Tourism* (New York: Alpha).

⑦Wart, Barney 2010. “Do You Know the Way to San Jose? Medical Tourism in Costa Rica,” *Journal of Latin American Geography* Volume9, Number1.